

法 医 学 講 座

教 授：岩 植 公 晴 法医学病理学

講 師：福 井 謙 二 DNA 分析

講 師：重 田 聡 男 法医学病理学

(東京都監察医務院)

教育・研究概要

I. 法医学病理学

1. 乳幼児のミルク吸引に関する研究

乳幼児突然死例において、ミルク吸引の有無と程度、吸引が生じた時期についての判断が求められる場合がある。そこで、ミルク吸引後の諸臓器の組織所見の経時変化を調べるため、ラットを用いた動物実験を行った。吸引されたミルクは、時間経過とともに肺以外にも腎、脾において免疫組織学的に証明され、ミルク吸引の生活反応となりうるということがわかった。

2. 水棲細菌の DNA 検出による溺死診断

法医学的な溺死診断において、生存中に溺水を吸引したことの証明として、肺以外の臓器からのプランクトン検出が重要とされている。しかし、プランクトンほどの大きさのものが肺胞毛細血管から吸収され諸臓器に分布するには限界があり、必ずしも感度の高い検査とはいえない。そこで、我々はプランクトンの代わりに水棲細菌に特異的な DNA を、PCR 法を用いて検出することによる溺死診断法の開発に着手した。溺死症例の保存血から nested-PCR を用いて高頻度に *Aeromonas sobria* に特異的な DNA が検出された。

3. 中枢神経系におけるユビキチン・プロテアソーム系及びオートファジー・リソソーム系の発現に関する分析

細胞内物質の分解系として機能するユビキチン・プロテアソーム系やオートファジー・リソソーム系が生体に与える影響については様々な医学分野で研究が進められている。そこで本講座剖検例のうち外傷性頭蓋内損傷におけるユビキチン・プロテアソーム系及びオートファジー・リソソーム系の発現について免疫組織化学的に検討した。その結果、外傷性頭蓋内損傷においてユビキチン・プロテアソーム系及びオートファジー・リソソーム系共に受傷後早期から発現し、傷害部位での不要な蛋白の分解過程において役割を果たす細胞が異なることや経時的に変化し得ることが示唆された。

II. DNA 分析

1. DNA 分析による戦没者遺骨の身元特定

厚生労働省の戦没者遺骨返還事業として、旧ソビエトで埋葬された戦没者遺骨の身元特定を DNA 鑑定で行った。核 DNA の Short tandem repeat およびミトコンドリア DNA の Hypervariable region の SNPs を遺伝マーカーとして使用した。

2. Ninhydrin 反応強度を指標とした DNA 分析 限界の客観的評価法

脱落上皮細胞が付着した紙面を Ninhydrin で染色し、その陽性部位から DNA 分析を行った。その際の Ninhydrin の発色強度や採取面積とミトコンドリア DNA 多型の検出限界との関係を検討し、分析対象部分を決定する客観的な評価法の確立を試みた。

III. 法医中毒学

1. 薬物中毒あるいは薬物の摂取が考えられる剖検例について、試料（血液、尿、胃内容、諸臓器など）を採取し、アルコール、医薬品（催眠薬・精神安定薬）、ドラッグ類（覚醒剤・麻薬）、一酸化炭素、青酸化合物、硫化水素、農薬などの薬物の定性・定量分析を GC、GC/MS および分光光度計などを利用して行った。

2. 薬物中毒が疑われた剖検例 4 例について、薬物分析を実施したところ、セルトラリンが検出された。ガスクロマトグラフ質量分析装置 (GC/MS) を用いたセルトラリンの分析方法を検討した。定量分析の結果、比較的高濃度のセルトラリンが検出された。

IV. 放射性炭素分析

1. 年齢推定法の確立

エナメル質形成時に取り込まれた放射性炭素量からの生年推定法を検討した。特に、一本の歯牙のエナメル質を咬合面側（切縁側）と歯頸側に分割し、それぞれの放射性炭素量から年齢の範囲を決定する方法を確立した。

「点検・評価」

1. 教育について

社会医学 I、II の講義、演習、臨床基礎医学 I（創傷学、中毒学）の講義を担当し、3年生の医学英語専門文献抄読と研究室配属、6年生の選択実習で学生を受け入れた。

2. 研究について

従来の研究を継続するとともに、新たなテーマにも着手し、少しずつ成果が現れてきている。

3. 実務について

法医解剖は毎年増加の一途をたどっており、昨年の解剖体数は約700体となった。その他、厚生労働省の戦没者遺骨返還事業や、警察庁の法医専門研究科研修（検視官育成のためのプログラム）への協力なども行い、社会貢献の一助を担っている。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Maebashi K, Iwadate K, Sakai K, Takatsu A, Fukui K, Aoyagi M, Ochiai E, Nagai T. Toxicological analysis of 17 autopsy cases of hydrogen sulfide poisoning resulting from the inhalation of intentionally-generated hydrogen sulfide gas. *Forensic Sci Int* 2011; 207(1-3): 91-5.
- 2) Nagai T, Aoyagi M, Ochiai E, Sakai K, Maruyama-Maebashi K, Fukui K, Iwadate K. Longitudinal evaluation of immunohistochemical findings of milk aspiration: an experimental study using a murine model. *Forensic Sci Int* 2011; 209(1-3): 183-5.
- 3) 朝倉久美子, 永井智紀, 小沢昌慶, 落合恵理子, 酒井健太郎, 前橋恭子, 福井謙二, 岩橋公晴. ドライアイスを用いた自殺が疑われた一剖検例. *法医の実際と研* 2011; 54: 123-7.

III. 学会発表

- 1) 酒井健太郎, 福田隆浩, 岩橋公晴. 外傷性頭蓋内損傷におけるユビキチン・プロテアーム系及びオートファジー・リソソーム系の発現に関する免疫組織化学的検討. 第52回日本神経病理学会総会学術研究会. 京都, 6月.
- 2) 前橋恭子, 永井智紀, 酒井健太郎, 中川裕士, 岩橋公晴. セルトラリンが検出された4剖検例. 日本法中毒学会第30年会. 長崎, 6月.
- 3) 朝倉久美子, 永井智紀, 小沢昌慶, 落合恵理子, 酒井健太郎, 前橋恭子, 福井謙二, 岩橋公晴. ドライアイスを用いた自殺が疑われた一剖検例. 第95次日本法医学会学術全国集会. 福島, 6月. [日法医誌 2011; 65(1): 64]
- 4) 星野邦昭, 永井智紀, 中川裕士, 齊藤春香, 青柳美輪子, 岩橋公晴. 血管創傷部位同定に対する注入物質の検討. 第95次日本法医学会学術全国集会. 福島, 6月. [日法医誌 2011; 65(1): 80]
- 5) Fukui K, Kondo-Nakamura M, Matsuura SI, Kondo M (Ochanomizu Univ.), Iwadate K. A case report of forensic identification using a single tooth: combination of DNA profiling and the date of birth estimation by radiocarbon analysis. 19th IAFS World Meeting,

9th WPMO Triennial Meeting, 5th MAFS Meeting, Madeira, Sept.

- 6) Sakai K, Iwadate K, Fukui K, Maebashi K, Nagai T. Was death caused by antemortem incised wounds? A case with progressed decomposition. 19th IAFS World Meeting, 9th WPMO Triennial Meeting, 5th MAFS Meeting, Madeira, Sept.
- 7) 小沢昌慶, 酒井健太郎, 朝倉久美子, 落合恵理子, 岩橋公晴. 心臓原発B細胞性悪性リンパ腫と診断した1剖検例. 第80回日本法医学会学術関東地方集会. 宇都宮, 10月.
- 8) 孫燕¹⁾, 久山佳代¹⁾, 福井謙二, 落合恵理子, 田島秀人¹⁾, 岩橋公晴, 福本雅彦¹⁾, 山本浩嗣¹⁾(¹⁾日本大学). 乳頭腫症の2症例報告. 第21回日本口腔粘膜学会総会・学術集会. 鹿児島, 9月.